

# 農業委員会だより

■ 発行人 飯山市農業委員会 伊澤春一  
 ■ 編集 飯山市農業委員会 情報委員会

## あせ道だより



農業委員 沼田 浩子  
 (常盤地区)

## 老後の暮らしによりいっそうの安心を

我が家は6人家族、昨年義父が他界し、義母と私たち夫婦に3人の子どもがいます。昨年、末の子が20歳を迎え、この春、社会人となりました。3人とも家から通勤しています。子どもたちを社会に送り出すという大仕事を終えホッとしたのも束の間、私たち夫婦は「食事・洗濯付き、家賃・光熱費無料」の店子<sup>たな</sup>を3人も抱えた大家さん状態で、今度は自分たち夫婦の老後の資金が心配です。

これからの熟年期を楽しむため、自分たちが受け取れる年金を試算しなければ・・・  
 年金で暮らしていくため

には、高齢夫婦で無職世帯の場合、月額28万円、高齢農家夫婦で23万円必要だと言われています。サラリーマンなどの厚生年金では夫婦23万3千円、キノコ農家の私たちが夫婦は国民年金なので、夫婦月額13万2千円の支給だそう。従って私たち夫婦は月額10万円の不足となってしまう。そこで不足分を補うために、平成14年から新農業者年金に夫婦2人で加入しました。

65歳から生涯受け取れる掛金全額が所得税の控除の対象になり、また受け取る年金は公的年金等控除の対象となるので節税になります。農業の担い手には国から月額4千円から1万円の補助制度(要件あり)もあり、他の公的年金や現在の預貯金の利息に比べ、運用利回り(利率)が良いし利率分は非課税となります。毎年6月末に自分の積んだ年金額や利率は個人ごとに通知されるので安心などなど、新農業者年金制度は、利点が多いのです。私たちは夫婦そろって加入したので、60歳まで掛け終えるとサラリーマン並みの年金が確保されることになりました。

アイスプラントを作ってみよう  
 テレビ等で話題の機能性野菜。地中のミネラル分を吸収する吸塩植物で、葉や茎の表面にプチプチとした液胞を付け、ほんのり塩味がする南アフリカ原産の多肉植物の仲間。だが夏の暑さには弱い。  
 栽培方法は・・・まき時期は3月～4月、3cmポット又はプラクトレイに一粒まきます。(種子はコート加工されている)。25度を超える高温時は、著しく発芽率が落ちるので、7月～9月まきは注意する。種まき後40日前後(本葉4枚～5枚)でほ場に株間50cm×60cmに定植する。加温に弱いので排水が良いほ場を選ぶ。定植後本葉8枚～10枚に成長したら一節を残して摘心し収穫、以後4枚～5枚で摘心を繰り返す。  
 食べ方は・・・サラタや天ぷらで、そのままの軽い塩味と新食感が楽しめます。



## 食と農、都市と農村

### 交じり合う仕掛けづくりを

地元農業委員が、いろいろな農業体験の企画をとおして、都市部の住民とのかかわり合いを深めていく活動を、1年をとおしてお伝えします(秋津地区、坪根登美子委員の取組み).....

加工までの交流  
 ◎東京、長野方面の飯山応援団(飯山大豆100粒の会・飯山ふるさと館が主催する親子で大豆づくり(7回講座)  
 ◎東京新宿での飯山の大豆、飯山米の麴でみそ造りのイベントなど

東日本大震災、県北部地震にあわれた皆様に心からお見舞い申し上げます。

人と人との絆を結びあうような生き方が再評価される時代が来ると思っています。そのためにも今まで進めてきた農作業体験・農産物加工をとおして、都市交流や世代間交流をさらに充実していきたいと願っています。

地域の仲間と楽しみながら、関係者の協力を得て次第にその輪が広がっています。また、子どもたちと大豆100粒運動も定着しました。昔から「米と豆(みそ)さえあれば、どこでも生きていける」と言われてきましたが、豆(みそ)は食料としてだけではなく、「人と人、町と村」を繋ぎあう大事な文化であると実感しています。

震災や原発災害を受けて日本の国がこれからのように変わっていくのか見当もつきませんが、科学万能のおごりのある暮らしを改め、自分の食を自分でつくりながら、地に足をつけ、

6年ほど前から市内にある遊休荒廃農地を活用して、都市部の住民とのかかわりを深めていく活動を始めました。  
 ◎大豆の種まきから、みそ

今後の予定は次のとおりです。  
 野菜の種まき収穫5月、11月、大豆の種まき6月下旬、草取り7月8月、枝豆収穫8月下旬、大豆収穫11月上旬、とつふ作り12月上旬、みそ作り3月末など



大豆の種まき



真剣に草取り



草取りでのいっぶく



煮大豆



みそ造り風景



みそ造り風景



みそ造り風景

菜の花と桜と千曲川